

## 2 命令文の場合

- 34 My mother **said to** me, “Wash your hands before lunch.” 530  
母は私に「昼食の前に手を洗いなさい」と言った。
- 35 My mother **told me to** wash my hands before lunch. 531  
母は私に昼食の前に手を洗うようにと言った。
- 36 He **said to** us, “Don’t open the box.” 532  
彼は「その箱を開けるな」と私たちに言った。
- 37 He **told** [warned, ordered] us **not to** open the box. 533  
彼は、その箱を開けないようにと私たちに言った [警告した, 指示した]。

発話内容が命令文の場合34, 間接話法では〈tell [warn, order] +人+ to do〉などを用いる35。ただし、〈Don’t ...〉という否定の命令文の場合36は、〈tell [warn, order] +人+ not to do〉にする37。

### コーパス 〈伝達動詞+人+ to do〉の形で使われるその他の動詞

advise (忠告する), ask (頼む), beg (懇願する), direct (公式に命令・指示する) (かたく), forbid (禁止する) (ややかたく), instruct (指図する・指示する) (かたく), order (命令する), tell (言う・指示する), urge (促す), warn (警告する) など

### 類例

- The doctor **said to** his patient, “You should not eat fatty food.”  
その医者患者に、「脂っこいものを食べてはいけませんよ」と言った。
- The doctor **advised** his patient **not to** eat fatty food.  
その医者患者に、脂っこいものを食べてはいけなと忠告した。

13

時制の一致と話法

38 Ichiro **said to me**, “**Please** give me a call at eight.” 534

一郎は私に「8時に電話してください」と言った。

39 Ichiro **asked me to** give him a call at eight. 535

一郎は8時に電話するようにと私に言った。

また、発話内容が please のついた命令文38や、Will [Would] you ...? のような依頼を表す文を間接話法で表す際には、〈ask + 人 + to do〉などの形が使われる39 (→ p.194)。

#### 類例

The bank clerk **said to me**, “**Could you** please write your name on the dotted line?”

その銀行員は私に、「点線の上に署名していただけますか」と言った。

The bank clerk **kindly urged me to** write my name on the dotted line. その銀行員は私に、点線の上に署名するようにと促した。

40 The coach **said to us**, “**Let’s** call it a day.” 536

監督は私たちに「今日はこれで終わりにしましょう」と言った。

41 The coach **suggested to us that we** (《主に英》 **should**) call it a day. 537

監督は私たちに今日はこれで終わりにしようと提案した。

また、発話内容が〈**Let’s ...**〉などの提案・勧誘を表す文40を間接話法で表す際には、**suggest [propose]** を用いて 〈**suggest [propose] (to +人) + that S’** (《主に英》 **should**) **V’ ...**〉とする41 (→ pp.139-140, 348-349)。

#### 類例

Mary **said to me**, “**Shall** we meet at the library after school?”

マリーは「放課後に図書館で会わない?」と私に言ってきた。

Mary **proposed to me that we** (《主に英》 **should**) meet at the library after school. マリーは放課後に図書館で会おうと私に提案した。

### 3 感嘆文の場合

42 My grandfather **said**, “**How** glad I am to be back home!” 538

祖父は「我が家に戻れて、本当に嬉しい!」と言った。

43 My grandfather **exclaimed (over [at]) how** glad he was to be back home. 祖父は、我が家に戻れて本当に嬉しいと喜びの声をあげた。 539

**コーパス** 発話内容が感嘆文の場合、間接話法では発言の内容や文脈・場面に合わせて、**complain (about)**, **exclaim (over [at])**, **sigh at** といった動詞を使ってその内容を表す。

類例 John often **says [complains]**, “**How** quickly time flies!”

ジョンはよく「時の経つのは何と速いことか」と言う。

John often **complains about how** quickly time flies.

ジョンは、時の経つのは何と速いのかとよく文句と言う。

類例 Jim **said [sighed]**, “**How** beautiful she is!”

ジムは「彼女は何て美しいだろう!」と言った。

Jim **sighed at how** beautiful she was.

ジムは、彼女は何と美しいのかとため息交じりに言った。